

2019年 イースターおめでとうございます

讚美歌を歌いながら、弾く練習を最近しています。その中で讚美歌21-320番と初めて巡り合いました。中世的響きを持つ、フランス民謡で、歌詞は聖書のマルコ福音書の情景を歌っています。

♪ ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ! ♪

1. 息子よ、娘よ、ほめ歌捧げよ。主は死に勝たれた。ハレルヤ、ハレルヤ。
2. 夜が明ける前に み墓をめざして 急ぐ女たち。ハレルヤ、ハレルヤ。
3. み使いは語る、「主はガリラヤへと先立ち行かれる」。ハレルヤ、ハレルヤ。
4. 恐れるみ弟子に 主のみ声がひびく「平和があなたに」。ハレルヤ、ハレルヤ。
5. 聖なるこの日に 心高く上げ、喜びたたえよ。ハレルヤ、ハレルヤ。

聖書はキリストの復活を最初に知ったのは女性であったと記しています。名を呼ばれ、その声によって、マグダラのマリアはキリストが生きて、共にいてくださることを知りました。そして、それを弟子たちに伝えたのです。彼らの声が今も世界中に、喜びの歌になって響いていると感じます。

夫は誕生日の前日の18日に、駒込病院に行きました。血液検査を受け、前回の内視鏡検査で検体した組織の結果から、主治医は「治ったとっていいでしょう。今後は定期検診で様子を見ていきましょう」と診断されました。なんという喜びでしょう。長い、厳しい、辛い闘病でしたが、忍耐して、この日を迎えることができました。組織に変異はありませんでしたし、腫瘍マーカーとされるLDHの値は基準値内に留まっていました。まだ、血液の力は戻っていませんが、無理せず、さらなる快復をめざしていきます。待ちに待って、七分咲の桜は満開となり、新緑の葉が輝き始めました！

昨年の誕生日には、夫は喜寿を迎え、長寿を喜びました。今年は、さらに、恵みの時間を増し加えられたことを覚え、感謝して過ごすこととなります。下の孫も高校を卒業し、大学生になりました。自分の学びたいことがあるのだそうです。彼の前途に祝福あれと心から祈っています。孫の進学、夫の回復、誕生日、イースターと喜びが重なりました。家族一同、感謝してお祝いします。

多くの友人、知人から、励まし、支えを頂いたことを思い、感謝の思いはますます強くなりました。同時に、病気のため、高齢のため、苦しみを抱えながら、忍耐し、病気を担っておられる友人、知人のことも、頭から離れません。さらに、病により、若くして天に召された人々のことも忘れることができません。夫に与えられた「恵みの時」は、どれくらい長く、太いか、分かりません。全ての人にとっても同じでしょう。それぞれが、それぞれに与えられた「恵みの時」を、今、生きているのです。大切に用いなければならないと感じています。(2019.4.19.)



「神がキリスト・イエスによって上へ召して、
お与えになる賞を得るために、
目標を目指してひたすら走ることです。」
(フィリピ 3:14)

